

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	川口市立川口駅前保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	山崎 町子	定員(利用人数)：	120 (123) 名
所在地：	〒 332-0015 埼玉県川口市川口1-1-1 キュポラ8F	TEL	048-222-6011

③評価実施期間

平成29年8月1日(契約日)～平成30年3月31日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○子育てニーズに応じた活動を展開し、保育園の専門性を活かした取り組みにも期待が持てる  
子育て支援センターが併設され、一時保育の受け入れや近隣公園を使った出前保育「おひさま会」  
が行われており、地域の子育て家庭が利用して活用している。園周辺における子育てニーズが高い  
ことを認識しており、支援センターの開放時間を延長することで午後の利用者も増えている。保育  
園の専門性を活かして様々な子育て相談にも応じており、職員の知識や技能などを活かしたリト  
ミック体験やベビーマッサージの活用なども視野に入れた取り組みが検討されており、今後の活動  
に期待が持てる。

○子どもたちが野菜栽培などを通して食育に興味・関心がもてるように活動している

本園は駅に隣接した商業施設の8階に設置され、園庭の一角に「ニコニコ畑」が作られて栽培活動  
が行われている。子どもたちが苗を買いに行き、園庭の畑に植えて水やりなどをして育てている。  
夏野菜(キュウリ・ナス・ピーマンなど)や冬野菜(カリフラワー・大根・小松菜など)を収穫  
し、給食に提供されるなど食に興味・関心が持てるよう工夫されている。今年度はジャガイモの栽  
培からポテトチップス作りの計画であったが、アリのジャガイモを食べてしまい収穫が少なく少量  
しか作れなかった。ジャガイモの栽培を通して、自然の不思議を感じ新たな発見と経験をしてい  
る。保護者向けには試食会を実施し、保育園の給食への理解を深めている。

○職員間の連携や協力関係が活かされ、保護者とのコミュニケーションを重視しており、高い満足  
度につながっている

今年度、園運営に継続的に携わり、施設全体の状況や職員構成などを認識している園長が就任する  
ことで、これまでの職員間の連携や協力関係を引き継ぎながら、よりコミュニケーションを活かし  
た保育園運営が進められている。また、保護者とのコミュニケーションをより重視し、関係性の構  
築・話しやすい雰囲気醸成など、これまで以上に職員間の一体感を図りつつ、更なる保育の室向  
上、職員の育成などに努めている。保育理念や方針、園目標に対する保護者の理解度も向上してお  
り、高い満足度につながっている。

◇特にコメントを要する点

○子どもたちが取り出し、片づけやすいように工夫がなされており、更なる保育環境の工夫と配慮の検討を期待したい

各クラスとも園庭に面して設置されており、室内は広く天井も高いので圧迫感が感じられない。各クラスとも遊びと生活の場がパーテーションで仕切られており、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。遊びのコーナーではオモチャなどが種類ごとにラベルを貼った籠に収められ、取り出しやすいよう棚の位置も低くするなどの工夫がされている。絵本は背表紙に色のついたビニールテープが貼ってあり、片づける時には同じ色のテープがついている場所に片づけるなど目で見て誰もが片づけやすいよう工夫されている。人形が棚の上に置かれていたが、座らせるとか布団に寝せる、または箱などに入れるなど、収納の工夫や見せ方などの検討を期待したい。

○室内の装飾物（保護者向け・園児の作品等）を選択して掲示をするなど、園からの情報を伝える工夫を検討されたい

玄関ロビーや事務所入り口付近の壁面に、多種多様な保護者向けのお知らせなどが掲示されている。現状から判断して、今必要な最新の情報の掲示はどれなのかわかりづらい面がある。例えば「感染症について」「お願い」「提出書類について」などの見出しを付けて掲示したり、期限を区切って掲示するなどの工夫と検討を期待したい。見せたいものを見せる、また伝えたいものを保護者に伝えていくように配慮することで、より明確な情報伝達につながると考える。

○現在取り組んでいる保育環境の設定などを具体的に中長期計画に位置付け、職員間で共有して次の計画につなげ、やる気などの更なる向上に活かされたい

園の中期計画を策定して保育の充実に向けた取り組みを進めている。また、保育環境の見直しに着目して再検討を行い、クラス内の配置や部屋の使い方などを工夫するなど、子どもたちの主体性・自主性につながる検討や取り組みを行っている。家具などで部屋の中を区切り、遊びと食事の空間を分けたり、掲示物の工夫をするなど保護者に伝えたいものの取り組みも配慮されつつある。これらの取り組みを中長期計画の中に位置付け、具体的な取り組み内容の検討、目標の設定や達成状況の確認などがしやすい指標の提示などを職員全員の協議に基づいて行い、達成状況などを職員間で共有しながら次の計画につなげることで、やる気や働きがいの更なる向上に活かされたい。

○子どもたちの安全・安心の更なる確立に向け、セキュリティやリスク管理を進められたい

利用者調査で継続して挙がっているセキュリティへの配慮として、インターホンでのネームプレート確認を取り入れ、エレベーターホールでの不審者対応を強化している。ビルの公益的な機能面から万人がアクセス可能であり、エレベーターホールには不審者も入ることができる構造となっている。ビルの管理部署との連携を考慮した対応も進められているが、保護者からは更なる対応・配慮を望む意見も寄せられており、もう一步進めたセキュリティ対応への検討・協議が期待されている。また、保育活動上での安全対策として、他園の事例を自園に置き換えたシミュレーションや安全に関する本部からの報告が毎日行われており、職員間での意識も高まっている。これを機会にヒヤリハットの気づきなどを時間や労力をかけずに簡単に記録していく方法やアイデアを募り、具体的な事故防止・再発の抑止などにつなげるリスク管理に活かすプロセスの検討を進められたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

乳児の保育において担当制を取り入れることで保育者と愛着関係をしっかり築き、情緒の安定を図りながら基本的な生活習慣を身につけていきたい。自分で遊びを選び様々なことに興味・関心を持ち、集中して取り組む力を育てていきたいと話している。幼児の保育においては環境設定に力を入れ、環境から働きかける保育を目指していきたいという目標を持っている。

そのためには、様々な情報を職員間で共有し保育にあたるよう職場環境を整えていくことや、保育者一人ひとりが意識を持ってスキルアップに努力し、質の高い保育が提供できるよう職員の育成に努めていくことを進めていかなければならない。人的環境と合わせて保育室の環境設定もリーダーを中心に話し合いを進めて試行錯誤を重ねている。

中長期計画や全体的な計画をもとに年齢に合った計画を作成し、活動後に評価・反省を行い、改善点を協議し次の活動にいかされるよう進めていきたい。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり